

第24回国際日本学シンポジウム 沖縄の祖先祭祀と墓 【総括】

宮内 貴久*

1 趣旨説明

私と武井基晃筑波大学准教授は2017年度から下記の共同研究を行ってきた。

・「村落社会の相互扶助の動揺と民俗の維持継承－葬儀変化にみる地域差の存在とその意味－」科
研費基盤研究（B）研究代表：関沢まゆみ（国立
歴史民俗博物館）2017年度～2019年度*

・「高度経済成長と食生活の変化」国立歴史民俗
博物館共同研究 研究代表者：宮内貴久（館内・
関沢まゆみ）2018年度～2020年度

共同研究では沖縄の祖先祭祀を参与観察してき
た。

- ・洗骨儀礼 糸満市 2018年10月28日
- ・清明祭 那覇市壺屋（尚本家・梁氏門中）
2019年4月7日
- ・十六日祭 石垣市白保・宮良 2020年2月9日
（午）

十六日祭は卒業生エリーの協力で行うことが出
来た。彼女は学生時代に「死ぬのは怖くない。死
んだら先になくなったオジーやオーバーに会えるし、
また一緒に暮らすことが出来る」と語っていた。
それは亡くなったらあの世でこの世と同じように
暮らすという沖縄の世界観を表している。

石垣島は1771年の大津波により甚大な被害を
被っている。その中で家を復興していく過程を家
譜により知ることが出来る。家譜が専門の武井准
教授は林松姓系図家譜の調査を行い、調査の継続

を計画していた。

石垣島には1864年に鄭良佐が作成した『北木山
風水記』という村落の風水の記録がある。私たち
は2020年2月10日に八重山郡竹富町で、墓と御嶽
について参与観察をして、墓がさまざまな場所
にあること、大きさ、形状にも多様性があること
を確認した。風水が専門の私も調査を計画していた。

しかし、コロナ禍で調査は中止となり、満足な
情報交換も出来なかった。今回の国際日本学シ
ンポジウムでは、長年にわたって沖縄の調査を行
ってきた古家信平筑波大学名誉教授に基調講演を
行ってもらい、武井准教授が那覇市の清明祭、私
が糸満市の洗骨儀礼を報告して、沖縄の祖先祭祀
について議論した。

注：

* 研究成果は以下の通りである。

武井基晃 2022 「葬儀における難儀の顕在化－岩手県
北上市の葬式組の動揺と維持－」『国立歴史民俗博
物館研究報告』第234集

宮内貴久 2022 「福岡市の葬祭事業者の動向と地域密
着型葬儀社の戦略と活動－山水社を事例として－」
『国立歴史民俗博物館研究報告』第234集

*お茶の水女子大学・教授